

2022 年度 昆虫 DNA 研究会 18 回研究集会, 信州昆虫学会 合同大会

世の中はまだまだ落ち着いてはいないものの、感染対策を講じて数年ぶりに現地開催での研究会を企画しました。オンラインでは味わえない充実した議論の場になるような大会を目指します。ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

*新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、現地会場で参加される方は会場での掲示やスタッフの指示に従ってください。

世話人 竹中將起 (信州大学)

(takenaka10mt@shinshu-u.ac.jp)

日程 2022 年 5 月 21 - 22 日

会場 信州大学理学部 (オンラインとのハイブリッド形式)

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 信州大学理学部講義棟 1 階 1 番教室

参加費 一般 1,000 円 学生無料 (オンラインの場合には無料)

*現地会場 : 100 人限定, ZOOM : 300 人限定

プログラム

5 月 21 日(土)

10:20 ~ 10:30 開会の挨拶、諸説明

10:30 ~ 11:15 一般公演

1. マルヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria ovata* の分子系統地理

○吉田匠 (信州大院・総合理工) ・林成多 (ホシザキグリーン財団) ・竹中將起 (信州大・理) ・東城幸治 (信州大・理)

2. タコノキ科アダンの甲虫媒-花序で繁殖する送粉者ケシキスイと花序の発熱

○宮本通・望月昂・川北篤 (東京大院・理学系・附属植物園)

3. 長野県南信地方におけるミヤマシジミの生息状況の報告

○中村寛志 (信州大) ・岡村裕 (伊那ミヤマシジミを守る会) ・土田秀実 (辰野生きものネットワーク) ・井原道夫 (日本鱗翅学会) ・江田慧子 (関西学院大)

11:20 ~ 12:10 招待講演 浅野郁（信州大・全学教育機構）

「ボルネオ島低地熱帯雨林における種子食性昆虫の多様性」

12:10 ~ 13:30 昼食

13:30 ~ 15:45 公開シンポジウム「昆虫の多様な形の進化」

1. 川北 篤（東京大）

「ホソガ科ハナホソガ属とコミカンソウ科植物の絶対送粉共生」

2. 今田 弓女（愛媛大）

「昆虫のコケ擬態と肉質突起の進化」

3. 新津 修平（東京都立大）

「蛾類における翅の退化-退行的な形態進化の多様性とその発生メカニズム」

15:45 ~ 16:00 休憩

16:00 ~ 17:00 特別講演 I 「次世代シーケンサーを用いたタカネヒカゲ属の分子系統」

・全ミトコンドリア塩基配列から見たタカネヒカゲ属の分子系統

○宇佐美真一・西尾信哉（信州大・山岳研究）・藤田創斗（信州大・医学部）・井坂友一（信州大・理）・中谷貴壽（湘南生物地理学研）・伊藤建夫（信州大）

・Oxford nanopore シークエンサーAdaptive サンプリングを用いたタカネヒカゲの全ミトコンドリア配列解析の試み

○西尾信哉（信州大・山岳研）、藤田創斗（信州大・医学部）、宇佐美真一（信州大・山岳研）

5月22日（日）

9:00 ~ 12:30 公開シンポジウム「チョウ類DNA研究の温故知新」

1. 田下昌志（松本むしの会）

「長野県における希少チョウ類の生息状況の変化について」

2. 大脇 淳（桜美林大）・中濱直之（兵庫県立大）

「草原性チョウ類の遺伝解析から適切な保全と起源解明を目指す」

3. 北原 曜（松本むしの会）

「チョウの交配実験からみた近縁種の関係」

4. 大島一正（京都府立大）

「形態差という分類基準は種分化のどの段階から検出できるのか？：ホソガ科を例に」

12:30 ~ 13:20 昼食・役員会

13:20 ~ 13:30 総会

13:30 ~ 14:20 特別講演Ⅱ 上木岳（信州大・総合医理工）

「共生から紐解くクワガタムシ科の多様化」

14:20 ~ 14:30 休憩

14:30 ~ 15:15 一般公演

5. 古い標本のDNA解析について

○伊澤和義、森田洋史、大場裕一、豊島健太郎、矢野大地（中部大）

6. 藤岡知夫コレクションを用いたヒメギフチョウの生物系統地理学

○森田洋史、伊澤和義、大場裕一（中部大学応用生物学部・中部大学蝶類研究資料館）

7. 絶滅危惧種チョウ類の環境教育教材の開発

○江田慧子（関西学院大学）・中村寛志（信州大学）

15:20 ~ 閉会